

# うた ひつじの詩だより

2011. 5. 1  
毎月発行 No.122  
この便りはお注文の品と  
いっしょにお届けします

## 「私たちと生き続けていく命」

森岡正博

今回の震災で多くの方々のいのちが奪われた。

ある生存者は語る。津波が襲ってきたとき、妻と手を握りしめていたが、強い波の力によって彼女を流されてしまった、と。目の前で愛する者が消えてゆき、自分だけが生き残ってしまったという慟哭は、それを聴く者の心にも突き刺さる。自分は愛する者を守りきることができなかった、最後の瞬間に何もしてあげることができなかったという自責の念は、どんな言葉をかけられたとしても、おそらく消えることはないだろう。

しかし、人生の途中でいのちを奪われた人たちは、決してこの世から消滅したわけではない。その人たちのいのちは、彼らを大切に思い続けようとする人々によっていつまでもこの世に生き続ける。私たちの心の中に生き続けるだけでなく、私たちの外側にもリアルに生き続ける。

たとえばふとした街角の光景や、たわいない日常や、自然の移りゆきのただ中に、私たちは死んでしまった人のいのちの存在をありありと見出すのだ。彼らは言葉を発しないけれども、この世から消え去ったわけではない。

人生は一度限りであるから、どんな形で終わったにせよ、すべての人生は死によって全うされている。すべての亡くなった方の人生は聖なるものとして閉じた。そして彼らのいのちはこれからずっとこの世で私たちと共にいる。私たちは彼らに見守られて生きていくのである。

『朝日新聞』2011年3月28日夕刊

3月11日以降、なぐさめとなる言葉を探し求めました。哲学者である森岡正博さんのこの文章は、目にした中で、私にとって最も心鎮まり、救いとなるものでした。ご快諾をいただいて、全文掲載しました。

## 夏至祭の子どもたち



5月のテーブル「麦の子とバラの精」  
池上洋子作

5月、あたり一面、新緑に覆われていきます。枯れてしまったように見えていたバラダの植物もすっかり緑になって、毎朝目が覚めると一番に、「あの子たち、どのくらい大きくなったかな？」とまず鉢植えのことを考えてそわそわ起き出します。

さわやかな季節の手仕事に、「夏至祭の子どもたち」はいかがでしょう。ワイヤーで骨格を作り、麻布のボディ



ーで包み、人形本体は工作感覚で作ります。北歐風の布でちくちくと洋服を縫えば、できあがり。一年で一番明るい日に遊ぶ子どもたちの情景が目につかびます。マイストング（メイボール）や、花の髪飾りも工夫して作ってみたら、楽しいですよ！（夏至祭の子どもたちのキット 大小2体セット 12~13cm、洋服用生地もセットで 3,000円・テキスト「心を育む人形たち」1,785円）

「春の宴展 2011」 4月27日(水)~5月1日(日) 11:00~18:00 (最終日は16:00)  
ギャラリースペース 游 相模原市中央区千代田 2-2-15 TEL: 042-856-1990 宮崎智子  
「ワールド人形展」 4月30日(土)・5月1日(日) ばふ宇治店 宇治市宇治妙楽31  
5月1日ご入場いただけるのは、15:30までです。 TEL: 0774-24-4321 中野久仁子



←今朝(4月30日)開いた日本原産のばら、ウチヤマナ!! 昨日出会った方からいただいたばかり。

旧友と遊ぶ日。集まるお宅は、良き昭和のおもかげを残した友人の家。しだれ梅の咲く門から玄関に続くお庭には雑草ひとつなく、さりげない設えのお家の中も、静謐な気持の良いお家です。我が暮らしの粗雑さと比べて、自称森ガールのまりーさんは恥じ入るばかりです。

お台所も遠慮なく入らせてもらいます。過不足のない使い勝手のよいお台所。けれど現代のキッチンにはない、何か、に気がきました。お

部屋に入ったら、すぐに明かりをつける、ということがないのです。そう、昼間です。窓もあります。明かりがなくても、充分なのです。そこに昭和の暮らしの、内福な奥ゆかしさをみようと、虚をつかれました。忘れていましたが、昔、学校では黒光りする廊下に立つ先生や友だちの姿は逆光の中、シルエットになるほどのほの暗さでした。

お家に伺ったのは、3月11日。大きな揺れが治まった後、わけのわからないまま、仲間5人は一夜、停電のなか、運命を共にしました。後から考えれば、申し訳ないことですが、何とは無しの安心に包まれていました。

すべてを煌煌と照らし出してしまふ現代の明かり、時間の急流にもまれ、そんなに急いでどこへ行くのかと問われる程、ゆとりを無くした私たち。まりーさんも本当に大切なこと、豊かさについて、今一度、考え直しています。

あの大きな災害にも、流されない、優しさとおつまじさをみせてくださった、東日本の被災された方達。今でも、まりーさんは想います。親しい人を失った喪失感、埋められないけれど、そこから再び、立ち上がる力は、誰にでも与えられていると。気に懸け、想いを込めて、共にありたいと願う心も、誰にでも与えられていると。酷な状況下ですが、そう信じてきたことが、間違っていなかったのは救いです。与えられた力を、今こそ、解き放していきましょう。

## 松井るり子さんの新刊翻訳絵本



シリアン・シールズ 文  
アンナ・カーリー 絵  
松井るり子 訳

ほるぷ出版  
本体 1300円

みんなであなだをまっていたとき  
くうきはすんでかかっていた  
あなたがいかにやさしいことばでえがかれた  
愛しい心のこぼれ絵本  
子どもと一緒に読めば  
うれしい気持ちになります。  
表紙裏より



同上

きょうがねむりに  
するるとき  
そらたんぽくくらくなり  
ゆつりはゆるゆるします  
あなたがいかにやさしいことばで  
えがかれた  
おやすみまえのこもろう絵本  
やさしいことばをゆくりと笑めば  
おこがな木ぬり遊びがやります。  
表紙裏より

スペース ペレのあたらしいふく」5月の開店日  
2日(月)~14(土) (日曜・祝日を除く) 10:00~16:30

ホームページ <http://www.s-hitsuji.co.jp/>

編集担当：佐藤治子

♥ スウェーデンひつじの詩舎 ♥  
スペース ペレのあたらしいふく

〒244-0001 横浜市戸塚区鳥が丘 15-2  
TEL&FAX 045-881-6900,6665

佐々木のアトリエ TEL&FAX 045-811-6708  
相談窓口(金) 寺田裕子 045-881-7035